

臨床場面における臨床家の行動特性および影響体験について ——熟練者と初心者を比較して——

鈴木陽子

I 問題と目的

心理臨床家の需要が高まるばかりの現在、臨床家の熟練に関する問題はもっとも重要な研究課題の一つであろう。臨床経験の積み重ねにより、臨床活動における臨床家の行動がどのように変化するかについて明らかにすることが有益である理由として、Auerbach & Johnson (1977) は、変化の過程を明らかにすることによって、望ましい変化をより効果的に促進することが可能になるかもしれないこと、経験の浅い臨床家を被検者にした多くの研究の結果の有効性について検討するために初心者と熟練臨床家の違いを明らかにする必要があること、両者の違いを調べることにより、臨床家としての役割の社会化の過程について明らかにできるかもしれないこと、の3点をあげている。

臨床経験年数がどのように臨床家に影響を及ぼすのかに関して、最も早く実証的研究を行ったのは、Fiedler (1950 a, b) であった。そのほかに、Strupp (1955a)・Fey (1958)・Wallach & Strupp (1964) などの研究においても、臨床経験年数の違いによりいくつかの違いが見出だされている。わが国における実証的研究には武島ら (1993) などがあるがあまり見受けられず、今後基礎的な研究の蓄積が求められている。

臨床活動において重要とされてきた要因のひとつに、臨床家の人間性やパーソナリティがあるが、臨床家の人間的全体像を考慮にいれつつなされた実証研究はほとんど見当たらない。これと関連して、生活場面における臨床家の自己修練の重要性を説いた書物は少なくないが、日常生活での臨床家の行動が臨床場面における行動とどのように関連しあっているかについては、ほとんどわかっていない。さらに、臨床家の人格やパーソナリティといった問題について述べようとする場合、臨床場面という状況の特殊性と臨床家の行動特性の双方を考慮に入れることが重要である。そして、臨床場面がどのように特殊であるかを知らうとした場合、相対的な基準となるものの存在が必要となってくる。日常生活場面は、その相対的基準として利用できる。日常生活場面での臨床家の動きは、臨床家の熟練性を、より明確な形で把握するための基準にもなる。しかし、臨床活動を調査するにあたって

は、臨床家の行動の特性的側面だけ取り上げるのは片手落ちであり、臨床活動の個性・特異性についても考慮が必要である。

以上から、研究1では特に臨床家の全体的な行動特性に着目し、臨床経験年数の違いによって臨床活動中の動きはどのような特徴を示すか、それらは日常生活での動きと比較してどのように特徴付けられるか、臨床経験を積むにつれてどのような影響が臨床家にもたらされるか、の3点を調査し検討することを目的とする。さらに研究2では、全体的な行動特性の検討では把握できない個別的側面として、臨床家の臨床活動に影響を与えている体験を取り上げ、長期的体験と短期的体験の2つに分けて検討することを目的とする。

また、臨床家における臨床経験年数の影響についての研究では、これまで臨床経験年数の長い群と短い群との2群での比較か、臨床経験年数と行動の相関関係でしかとらえられていないことが、ほとんどであった。よって下位目的として、中間群の設定によって見出だされる意義に着目し、データ数が十分な場合には、長期群(臨床心理士で臨床経験年数16年以上)・中期群(同5~15年)・初心者群(臨床訓練中の大学院生)の3群について比較検討する。そして、3群に分けるとデータ数上分析の妥当性に疑問がある場合には、臨床心理士群と初心者群の2群において比較検討する。

II 研究1 行動特性について

<方法> 人間の二律背反性を包含でき、行動の柔軟性・一貫性をとらえることのできる TSPS に、臨床場面で問題にされやすく、かつ日常生活場面の行動特性としても適用できるような項目の追加・変更を行い、臨床家の行動特性について質問紙調査を行った。調査対象は愛知県臨床心理士会会員と臨床訓練中の大学院生であり、227名中69名から回答を得た。研究1では、最もエネルギーを注いでいる臨床活動として臨床面接を選択した58名(長期群14名・中期群14名・初心者群25名)を分析の対象とした。

<結果と考察> 臨床家の行動特性について因子分析を行った結果、臨床場面では「緻密性」「開放性」「非指示性」の3つ、日常生活場面では「沈着性」「活動性」「奔

放性」「堅実性」の4つの因子が抽出された。臨床場面における行動特性の中で、「緻密性」は初心者群より長期・中期群で尺度得点が高かった。日常生活場面と比較した場合、臨床場面では臨床経験年数にかかわらず共通して賦活または抑制される行動特性があった。賦活されるのは「沈着性」「非指示性(狭)」「繊細性」および一般的特性・特殊的特性の一貫性であり、抑制されるのは「奔放性(狭)」「自己開示・個人性」であった。「非指示性(狭)」と「奔放性(狭)」は場面の違いによる効果が大きく、「沈着性」と「繊細性」は場面の効果のほかに群による効果が大きかった。「自己開示・個人性」と一般的特性・特殊的特性の一貫性はさらに、場面が及ぼす効果の大きさにおける群間の違いが大きかった。また、初心者群は臨床場面での行動特性の「緻密性」と「非指示性」が分化せず、行動全体も統合されていなかったが、臨床心理士群は臨床場面での行動特性が分化しており、行動特性全体がつながりをもっていた。長期群・中期群・初心者群という順に得点が規則的な上昇あるいは下降を示すものが少数であることや、長期群と中期群との差が、長期群と初心者群および中期群と初心者群との差より大きい場合がいくつかあることなどにより、臨床経験年数の長い者と短い者との2群で比較したり、臨床経験年数の影響を直線的なものと考えることが危険であることが示された。初心者群から中期群への移行は特定の行動特性を身につけていく過程として考えられやすいのに対し、中期群から長期群への移行は構造的・質的变化としての側面が強いと解釈できた。

Ⅲ 研究2 臨床活動に影響を及ぼしている体験について

＜方法＞ 調査対象者・調査方法は研究1と同様である。長期的・持続的体験に関しては、調査者が候補項目を設定し、上位3位の選択を求めた。短期的・エピソード的な影響体験は、自由記述法を用いて自分の臨床活動に最も大きな影響を与えている体験が生じた年齢・体験の内容・受けた影響の記述を求めた。分析対象は回答が得られた69名(長期群19名・中期群20名・初心者群30名)である。

＜結果と考察＞ 臨床活動に影響を及ぼしている長期的体験として、長期・中期群は「自分の臨床経験」(以下「臨床経験」)、初心者群は「自分の臨床経験以外の人生経験」(以下「人生経験」)をあげたものが最も多かった。長期群は「教育分析・被検者体験」から、中期群と初心者群は「スーパービジョン」から多く影響を受けていた。長期・中期群は初心者群に比べ「訓練機関以外の自主研修」(以下「自主研修」)を多く選択していた。初心者群は選択にあまり規則性が見られず、自分の臨床経験の少

なさを種々のソースから補っていると考えられる。中期群では関心が「臨床経験」に集中し、資格制度上の理由および技能の維持・向上のため「スーパービジョン」や「自主研修」を受けると考えられる形が多い。長期群は「臨床経験」をベースとし、資格制度上の理由などから「自主研修」も受けつつ、多方面へ目をむける傾向がある。

臨床活動に最も大きな影響を与えている短期的体験の生じた年代は、20代が3群とも最も多かった。10代未満の短期的体験は、すべてが「人生経験」であり、人生全般や職業選択の方向性を漠然と与えるものが多い。10代でも、ほとんどが「人生経験」であり、臨床家の仕事を選ぶ契機となるような影響を及ぼしている。20代では、最も数が多いだけでなく、多様な影響体験があげられている。カテゴリーの広がり方が特に初心者群に顕著である。長期・中期群での20代の「臨床経験」から、臨床活動を開始し始めた頃の臨床経験は、その後の臨床経験に長期にわたって影響を及ぼすと考えられる。30代でも「臨床経験」が多く、20代・30代は、自分の臨床経験から大きな影響を受けやすい時期だといってよい。40代では「人生経験」と「自主研修」があげられており、40代以上になると、「臨床経験」は積み重ねとしての影響は強いものの、個々のケースを特定する形での影響は相対的に小さくなる可能性がある。短期的影響体験の内容としては「人生体験」が最も多く、具体的には死に言及したものや自分が傷ついたり苦しんだりした体験が多かった。「臨床経験」は、長期・中期群では「人生経験」と同程度、初心者群では「人生経験」の半数以下であった。初心者群は「臨床経験」を場面単位で取り上げ、長期・中期群はケース単位で取り上げるなどの傾向が見られた。

Ⅳ 総合的考察

従来の研究と比較した場合、本研究の特色は、①臨床場面以外に日常生活場면을統制状況として取り上げたこと、②TSPS 修正版を用いたこと、③影響体験を調査したこと、④中間群を設定したこと、のような点と考えられる。各々について意義が認められたが、①は日常生活場면을ひとまとめに統制状況として扱うことの可否、②は追加・変更項目の偏り、③は分析や調査の方法の適切さ、④は3群の分け方について、さらに検討が必要である。また、信頼性を高めたり分析上の妥当性を得るために、より多くのデータを収集する必要がある。本研究は質問紙により自己報告されたデータを横断的に検討したものであるため実験的に検討したり調査を繰り返す行うことなども必要であろう。